Ⅵ　新市建設の基本的理念

１、まちづくりの基本的方針　～水と緑の自然共生型のまちづくり～

（１）「水」と「緑」の恩恵

水は命の源であり、特に新市のエリアに胎内川水系が全てに含まれることからすると、正に母なる川「胎内」が新市のシンボルになると言えます。

「たいない」はアイヌ語で「清い水の流れ」を意味します。この清流は豊かな自然を生み、貴重な動植物の自生、生息を育んでいます。源流から僅か４０キロで日本海に注ぐこの川の流域は、高山地帯のものから平野部にかけて生育・生息する数々の動植物を見ることのできる貴重な地域でもあります。

また地形に見る特徴も稀(まれ)で、上流部のＶ字渓谷、中流部の河岸段丘、平野部の扇状地のほか、人工的な霞（かすみ）堤（＊20）や河口部分の切り落とし（河道の開削（＊21））も先人の知恵や偉業を伝えてくれます。地下水が豊富なこと、石油や天然ガスといった地下資源の恵み、そして胎内川を受け止める日本海や白砂青松の海岸線なども、この地域独特の自然の恩恵と言えます。

この川と水自体が、豊かな自然と深い歴史を醸しだし、私たちの教科書となり、生活そのものであるといっても過言ではありません。

一方、山々の緑は、上流部では年間降水量 4,000 ミリにも及ぶ雨や雪を保水する役目を担っています。森林は雨や雪解け水をゆっくりと胎内に流しだす「緑のダム」の役割を果たしています。

また、流域の木々は各所で私たちの目を潤してくれます。両地域のエリア内には、磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園、自然環境保全地域などの指定があり、特に胎内渓谷の新緑・紅葉は、県内外の多くの人々を魅了しています。

昭和４７年、第２３回全国植樹祭が黒川村・胎内平で開催されましたが、これは恵まれた自然とそれを守り育む取り組みが全国的に評価されたものといえます。

また櫛形山脈、蔵王山塊の緑の多き庭は、両地域の歴史を育み続けた場所であり、白砂青松の海岸線とともに、地域住民の憩いの場となっています。加えて、河岸段丘上の平地や広大な扇状地に広がる緑の水田は、先人から受け継いだ活力と恵みを今も変わらず与えてくれます。

これらを総合的に考え合わせ、「水」と「緑」を新市のイメージと位置付け、この新市将来構想における基本的な方向を示すキーワードとします。

（２）自然を活かす「自然共生型」のまちづくり

前述の「まちづくりアンケート」では、自然の保護に対する施策の充実を望むとともに、今後のまちづくりに対しては、「自然の豊かなまち」をイメージするという結果がでています。この地域が自然に恵まれているということを住民自身が自覚し、意識しているということがうかがえますし、新市におけるまちづくりを議論していく上で、自然を保護し、美しい景観や動植物を守り育てることを基調とする理由です。

ただ、他市町村のまちづくりにおいても、自然を基本とするところが少なくありません。他の地域の自然との違いを明確にするためにも、自然と住民との特色のある関わり方や、まちづくりをする上での「こだわり」を見出すことが肝要です。

また、恵まれた自然環境を守り育てるということと、インフラの整備をはじめとする住民生活を向上させるために行う施策・事業は、各論で相反することも多く、その方向性をめぐり議論が分かれることがあります。現にアンケートにおいても、産業の振興・活性化による雇用施策の充実をはじめ、都市的な基盤整備を望む声も少なくないことも事実です。

そこで、両地域にしかない自然に着目しながら、ここでしかできない産業や交流に活用し、住む人にやさしく、かつ快適で、また訪れる人に潤いを提供することができるかが大きなポイントとなります。「日々恩恵を受けている自然だからこそ、大切にしていく」という意識を高めながら、自然とそこで生活する人々が「共生」するためのまちづくりを進めていかなければなりません。

（３）地域版「三位一体」の推進体系

「共生」の第一歩として、アンケート結果を基にまちづくりの方向性を考えてみました。まず第１に、水と緑、山、川、海岸などの「自然環境」に対するまちづくりへの思いが見えてきます。そして、雇用問題にも関わりの深い「産業振興」に対する希望、また少子高齢化にかかわる問題としても取り上げた「福祉・保健」に対する施策にも大きな期待が寄せられていることがわかります。

「自然環境」を守り育むには、郷土の歴史や文化や貴重な地形、生態系を知り、その後のまちづくりに活用するために想像力を養わなければなりません。そのためには教育環境を充実させ、生涯学習を盛り込み、住民の多くが親しみと理解を得るための施策を取り入れることが不可欠です。

「産業振興」は、雇用問題と深く関わりがあります。自然や地域の特性を活かした地場産業や複合的産業の育成、起業者の支援や就労相談窓口の設置などの体制づくりのほかに、企業誘致、販売拡大、ＰＲなどを推進する上ではネットワークの構築が重要ですし、同じく就労の機会を拡大する意味においても、観光事業の振興・活性化に

ついても同時に捉えていかなければなりません。

また「福祉・保健」は、安全・安心・快適という言葉に結びつくことから、自然を活用した憩いの場づくりをはじめ、生活都市基盤の整備やＩＴ（＊22）を活用したサービス網の整備推進、防災・防犯対策などを含めて一体的に考えることができます。

これら３つは、まちづくりの基本計画を策定する上で「三位一体」で推進されるべきものですし、施策体系を考えたときの骨格となって新しいまちづくりの方向性を示すものといえます。

２、新市の将来像

水と緑、山、川、海、その中に育まれた深い歴史と文化を活用しながら、快適で安心して暮らすための福祉施策や都市基盤等の整備が必要とされています。また、自然と産業の連携を模索し、創造性の高い地域を目指すことが要求されていることなどを一体的に考え、新市の将来像を次のとおりとします。

【新市の将来像】

自然が活きる、人が輝く、交流のまち

～自然共生型アメニティ（＊23）都市を目指して～

３、新市建設の基本目標

前節までの新市の方向性や将来像に鑑み、新市建設のために、次の４つを基本的なまちづくりの目標として、施策の体系を考えていくこととします。

【基本目標】

（１）自然と文化を大切にし、未来を創造するまち

（２）住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち

（３）活力と希望を生み、交流を育むまち

（４）新しい改革にも柔軟に対応できる行政を推進するまち

上記（１）から（３）については、前述のアンケートの結果における「期待する施

策」がバランスよく配置されますし、「三位一体」の施策体系によるまちづくりを考えた場合にも合致するものです。加えて、まちづくりのための直接的な施策のみならず、組織体制や人的配置を含んだ行財政との一体的・効率的運営を図ることが肝要であることから、（４）を加えて基本的な目標を設定するものです。

更に、アンケートで寄せられた意見、今後の住民意向の聴取、両町村の協議により定められる新市の根幹となすべき事業等を体系別に整理しながら、「自然とひとの共生型都市」の実現を目指すものとします。

（１）自然と文化を大切にし、未来を創造するまち

水と緑を初めとして、恵まれた自然と共生する取り組みをみんなで考えていきます。自然を保護し、守り育てる意義、地球環境にやさしい取り組みを学校教育、生涯学習の場にも取り入れ、古くから自然の恩恵を受けてきた郷土の歴史を振り返ることにより、この地域の恵まれた環境を再認識するとともに、新しい活力と未来を創造する施策につなげていきます。

【主な施策の方向（案）】
・水と緑を守り、地域の自然と地球の環境を考えるまちづくり
・緑のステージで、いきいきとした子供たちと未来を育むまちづくり
・歴史と文化を再発見し、新しい情報発信と国際交流を促進するまちづくり
・自然と親しむ生涯学習、自然を満喫できる生涯スポーツのまちづくり

（２）住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち

水と緑を利用し、市民の憩いの場を設けることにより、健全で豊かな心を育むとともに、自然環境をより意識した都市空間・居住空間の整備など、住む人がゆとりを実感できるような施策につなげていきます。また、健康で安全に暮らせるまちづくりを推進し、福祉・保健・医療対策、防犯・防災対策の充実を図りながら、人にやさしく、元気なまちづくりを行います。

【主な施策の方向（案）】
・自然と共生できる機能的で快適な都市基盤を有するまちづくり
・憩いの場や住宅地を水と緑で演出するまちづくり
・心のふれあう福祉と子育て支援のまちづくり
・元気な家族を応援する保健と医療を推進するまちづくり
・防犯・防災に配慮した安全で、安心して暮らせるまちづくり

（３）活力と希望を生み、交流を育むまち

自然の恩恵を産業の活性化に活用します。特に農業は自然と深く関わり、地域の特徴を色濃く反映する産業です。また自然美を活かした観光産業は、グリーンツーリズム（＊24）時代の到来により、国際的にも脚光を浴びる可能性が指摘されています。各種産業のネットワーク化と人的交流を促進する施策を展開するとともに、産業創設と雇用促進を命題とした、積極的な基盤づくりに取り組みます。

【主な施策の方向（案）】
・農・工・商業の基盤整備とネットワーク化を促進するまちづくり
・自然と観光事業を一体的に考え、ツーリズムの拠点となるまちづくり
・新しい活力を生みだす産業育成と雇用を促進するまちづくり
・農村環境を地域間交流に活用し、活力と定住を生むまちづくり

（４）新しい改革にも柔軟に対応できる行政を推進するまち

合併施行に伴う不安や住民ニーズを的確に捉え、常に時代の要請に応えることのできる行政組織を確立するとともに、新市計画に掲げる目標達成のため、各施策が確実に推進できる体制を整えます。また、地方分権などによる制度改正にも柔軟に対応し、事務の効率化や民間活力の導入など更なる行政改革を推進するとともに、ＩＴを駆使した情報の公開と市民参加型の行政を目指します。

【主な施策の方向（案）】
・新市の計画を推進するための行政基盤を備えたまちづくり
・新制度や住民ニーズに対応するため、更なる行政改革を推進するまちづくり
・積極的な情報提供と市民参加型（パートナーシップ）行政によるまちづくり

新市建設計画施策体系図【素案】

＜新市将来像＞

自然が活きる、人が輝く、交流のまち

～自然共生型アメニティ都市を目指して～

＜基本的目標＞

＜自然環境、教育方向＞
A　自然と文化を大切にし、未来を創造するまち

＜住民生活･都市基盤方向＞
B　住む人が安心･快適に暮らせるやさしいまち

＜産業育成･地域活性化方向＞
C　活力と希望を生み、交流を育むまち

＜新行政改革方向＞
D　新しい改革にも柔軟に対応できる行政を推進するまち

＜基本的施策の体系＞

- A１　水と緑を守り、地域の自然と地球の環境を考えるまちづくり
- A２　緑のステージで、いきいきとした子供たちと未来を育むまちづくり
- A３　歴史と文化を再発見し、新しい情報発信と国際交流を促進するまちづくり
- A４　自然と親しむ生涯学習、自然を満喫できる生涯スポーツのまちづくり
- B１　自然と共生できる機能的で快適な都市基盤を有するまちづくり
- B２　憩いの場や住宅地を水と緑で演出するまちづくり
- B３　心のふれあう福祉と子育て支援のまちづくり
- B４　元気な家族を応援する保健と医療を推進するまちづくり
- B５　防犯・防災に配慮した安全で、安心して暮らせるまちづくり
- C１　農・工・商業の基盤整備とネットワーク化を促進するまちづくり
- C２　自然と観光事業を一体的に考え、ツーリズムの拠点となるまちづくり
- C３　新しい活力を生みだす産業育成と雇用を促進するまちづくり
- C４　農村環境を地域間交流に活用し、活力と定住を生むまちづくり
- D１　新市の計画を推進するための行政基盤を備えたまちづくり
- D２　新制度や住民ニーズに対応するため、更なる行政改革を推進するまちづくり
- D３　積極的な情報提供と市民参加型（パートナーシップ）行政によるまちづくり

＊この体系図は「新市将来構想」をもとに作成されたものです。新市建設計画策定時には、この「基本的施策の体系」の下に各種の施策・制度・事業等が張り付きます。

４、地域別の整備計画

前述のとおり、両地域には豊かな自然はもとより、都市的機能、優良農地、保養・観光施設など、コンパクトでありながらも地域内に魅力的な機能がバランスよく揃っています。両町村の合併を考えたとき、都市部の「一機能強化型」の合併とは多少異なり、多元的な機能が広く分散していることがむしろ特色といえます。

これらの機能を大まかなゾーンとして設定することは、効率的なまちづくりには欠かせませんが、基本目標を達成するためには、各ゾーンがその機能を補完しあうことができる「コンパクトシティ」型都市（＊25）をイメージしながら、地域の連携・協力を図るものとします。

（１）農業「美味しいもの生産・提供」ゾーン

中　条	乙	築　地	黒　川	胎　内

新市となるエリアの中には、数多くの農産物が生産されおり、首都圏をはじめ各地で高い評価を得ています。

平野部では、基盤整備の行き届いた水田で栽培させる良質なコシヒカリをはじめ、有機・低農薬の特別栽培米（特栽米）や加工食品用の大豆などが生産されています。このエリアでは、美しい田園風景を保全しながら、今後も生産性の高い稲作を中心に、高品質良食味米、麦・大豆などの生産拡大を図っていきます。

また、黒川地区の蔵王山麓では「フルーツパーク（＊26）」の整備が進んでおり、完成後は観光事業とタイアップした新しい農業スタイルとして、今後の運営に期待が寄せられています。

海岸部の砂丘地では、畑作・園芸・畜産が盛んです。ねぎ、にんじん、大根を中心とした畑作物をはじめ、果樹、チューリップ球根、葉たばこなどは県内有数の産地であり、今後も栽培技術の高位平準化を図り、市場価値の高い産地づくりをしていきます。

また胎内地区では、付加価値の高い胎内米のほかに、畜産も盛んで、胎内牛黒毛和種、胎内黒豚、胎内ジャージー牛（＊27）を生産しています。そのほか、そば、山菜、胎内高原ビール園等の地元観光施設で提供していくとともに、更に特産品としての加工・開発を推進し、県内外の小売店への販路拡大を図ります。

このように新市は新潟県屈指のともいえるおいしい食材の宝庫であり、今後も農業と観光を密接にリンクさせながら、地産地消と独自ブランドによる商品化を進めていきます。

また、胎内・大長谷地区では自然環境をアピールし、体験農業ができる制度・施設を整備し、人口流出や離農に伴う農地の荒廃を防ぐ施策を実施します。これは同地域の活性化を図る手段として、かつ地域間交流の軸として観光の各ゾーンと密接な連携を図るものとします。

（２）工業「活力と躍動の創造」ゾーン

中　条	乙	築　地	黒　川	胎　内

新市のエリア内にはクラレ、日立製作所の大手企業の工場があるほか、中条地区の中核工業団地を中心に、黒川地区、胎内地区にも工業団地が設置されています。胎内川流域に造成された約１００ヘクタールの工業団地は、いずれも地盤のよさ、水源の豊富さに加え、日本海東北自動車道の中条インターチェンジの供用開始による交通の便に優れています。

特に、中条町は工業の集積地としての数々の実績とＳＩＵＣ新潟校の誘致などの積極的な取組みが評価され、地域振興整備公団により「新潟中条中核工業団地」が造成されています。中核工業団地は国際的、先進的というイメージから「テクノキャンパス」と呼ばれており、高い技術と生産性を発揮できる空間として、引き続き国・県とタイアップしながら工場誘致活動を展開していきます。

中核工業団地の笹口浜地区は、自然環境にも恵まれていることから企業の研究機関の設置を検討するとともに、胎内地区の栗木野地区は、地場産業の育成機関や起業家支援施設の設置など、いずれも産官学一体となった取り組みを行いながら、地域経済の活性化と雇用機会の拡大に努めます。

また、経済情勢が依然低迷する中、地域内で一定の需要・供給を確保する上でも地元・観光産業や農業とタイアップした産業の創設を併せて考えていきます。

（３）商業「いい品・いい笑顔提供」ゾーン

中　条	乙	築　地	黒　川	胎　内

商業ゾーンとしては、中条地区の国道７号沿線及び本町商店街を中心とする市街地の二つのゾーンがあります。国道沿線には大型スーパーが進出しており、近年、チェーン店など各種専門店も開店しています。また本町地区は、沿道区画整理事業も完成し、より魅力的な商店街を目指して専門店同士の連携が期待されます。

今後は、隣接する２つのゾーンを機能的にリンクさせていくために、都市計画道路の整備が不可欠とされています。

併せて、国道沿線の商業地域では、周辺環境との調和に配慮した拠点づくりを行うとともに、新市のエリア以外からの集客力もあることから、地元の農産加工品や付加価値の高い特産品の取扱店やアンテナショップ（＊28）的な情報発信ポイントを設置します。

これは日本海東北自動車道の中条インターと、エリア最大の観光地である胎内リゾートの間のオアシスにもなりえることから、観光・交流をひとつの軸として周辺商店街や農産物加工業の活性化、雇用の促進、若者定住などの相乗効果を期待するものです。

（４）観光・レクリエーション「リラックスといやし」ゾーン

①胎内リゾートゾーン

中　条	乙	築　地	黒　川	**胎　内**

胎内川の中流域から上流域にかけては、既に胎内スキー場、胎内パークホテルをはじめとする胎内高原・奥胎内の観光ゾーンが形成されており、地域外からも数多くの観光客が訪れる、県内でも有数の観光地となっています。

特に、黒川村が設置した村営・ロイヤル胎内パークホテルは、欧風の洗練されたデザインがリゾート気分を演出します。今後も国際会議や全国規模のシンポジウムを開催・誘致するとともに、平成１６年オープンした「胎内自然天文館」と、全国的にも注目を集めるまでになった「胎内星まつり」の拡充・ＰＲをはじめ、各種イベントを開催するなどして誘客を促進します。

また、ツーリズム運動の高まりに対応した、滞在型・体験型リゾートとしての各種事業を展開します。特に、奥胎内渓谷においては、平成１７年完成予定のワークステーション（＊29）を中心としたネイチャーガイド（＊30）の実施や専門員を配置するなどして、豊かな自然をアピールしていきます。胎内地区については、自然観察・体験農業などの国内外のツーリズム運動を受け入れ、国際交流や地域間交流とともに、地域の活性化を図るために各種事業を展開します。

②リバーサイドゾーン

中　条	**乙**	**築　地**	**黒　川**	胎　内

母なる胎内川は、上流域から下流域まで、自然と親しみ、人と人が交流できる家族向けのスポットが点在しています。

その中で、中条地区のリバーサイドパーク、胎内地区の夏井河川公園は、直接川原に足を入れることが可能ですし、中流域、下流域にはサイクリングロードも整備され

ています。

その流域の中心・扇状地の扇の要に位置する樽ヶ橋公園周辺は、緑深い景勝地でもあり、胎内観音、クアハウス胎内、樽ヶ橋遊園などの施設が配置され、両地域の住民にとって憩いの場となっています。

今後も、河川敷や流域において水に親しむことのできる公園やスポットを配置し、親子が安全にまちづくりの基調である胎内の「水」に親しめるようにするとともに、ランニングコースやサイクリングロード、遊歩道を整備し、市民が参加できる各種イベントを実施していきます。

③白砂青松ゾーン

中　条	**乙**	**築　地**	黒　川	胎　内

乙・築地地区の海岸線は、１５キロの砂浜と松林が美しい地域です。貴重な海浜植物の宝庫でもあり、自然緑地と砂浜の保全を基本としながら、海洋レクリエーションのゾーンとして位置付けられてきました。特に、美しい夕日を見ることができる国道３４５号は「日本海夕日ライン」と呼ばれており、高速道路からのアクセスにも恵まれています。

加えて、はまなすの丘、乙宝寺、少年自然の家、荒井浜森林公園、親鸞聖人、村松浜海水浴場のほか、平成１６年度に完成する「長池公園」を新たな名所として、白砂青松の自然に覆われたスポットが南北に点在しています。

このゾーンは、Ｂ＆Ｇ海洋センター艇庫を中心とした海洋スポーツの拠点として、また塩の湯温泉・トレーニングセンターを中心とした気軽に疲労回復や健康増進運動を楽しめる場所として、近隣地域を含めた人々の利用が期待できます。

また、海浜や松林を散策、ジョギングできるコースを整備しながら、各スポットやリバーサイドゾーンとの連絡を可能にするとともに、Ｂ＆Ｇ艇庫周辺の整備・充実や、短期間に２万人を集客する「チューリップフェスティバル」を中心として長池周辺のイベントや森林空間をＰＲしていきます。

（５）文教「歴史ロマンと未来育成」ゾーン

中　条	乙	築　地	**黒　川**	胎　内

中条・黒川地区と胎内地区の間に位置する櫛形山脈・蔵王山塊のエリアは、リバーサイドゾーンと同じく市民憩いの場になることはもちろん、文化施設や歴史関連のスポットが点在していることから、学びのゾーンとして位置付けます。

櫛形山脈の北端に位置する鳥坂山は板額御前ゆかりの地で、ハイキングコースは櫛形の山々に点在する史跡や見どころを結んでいます。そのほか、山麓には、ＳＩＵＣ新潟校、ＮＩ友好会館、国際交流公園、森林公園、陶芸研修所、白鳥公園、シンクルトン記念公園などの施設が既に整備されています。

今後も、ハイキングや散歩を安全に楽しみながら中世のロマンに思いを馳せることができるように整備を図るとともに、エリア全域を公園として位置付け、学び、憩い、交流を創造する場として各スポットが機能的にリンクするようソフト事業を展開していきます。

（６）住居「安心快適暮らし」ゾーン

中　条	乙	築　地	黒　川	胎　内

市街地、またその周辺地域では、その利便性を活かし住宅環境の整備が進められています。

中条地区でも、国道７号周辺や西中央線・あかね通り周辺を中心に宅地化が進んでいますし、黒川地区でも前山台団地が整備されています。また公営住宅は、中条地区において順次建替えにより近代的な住環境の整備が進められています。

今後は中核工業団地に企業立地に伴う住宅需要が見込まれることから、市街地周辺において住宅地の確保が必要です。これらの整備の条件としては、市街地や商業地域とのアクセス、下水道の整備をはじめとする都市基盤の充実はもとより、緑地などに配慮しながら開発・整備を進めていきます。

また農村地域においては、市街地との著しい格差が生じないこと、過度の開発により自然が破壊されないことを念頭に、地域住民の要望を聴取しながら生活基盤や住環境の整備を実施していきます。

――

【用語解説】

（＊20）**霞（かすみ）堤**…堤防の一部に、流路方向と逆向きの出口をあらかじめ作っておき、洪水時には洪水流の一部を逃がすことで洪水の勢いを弱め，下流側で再び流路に取り込むといった治水技術。胎内川下流部で見られる。

（＊21）**切り落とし（河道の開削）**…下越地方の中小河川の多くは海岸砂丘に行く手を阻まれ、平野部に潟湖（せきこ：ラグーン）を形成したり、砂丘沿いに流れて比較的大きな河川に合流したりしていた。胎内川も、もともとは北上して荒川に合流していたが、明治２１年、宮原泰次郎の努力により約１キロの河道が開削され、直接日

本海に流出できるようになった。落堀川や加治川も開削されたもの。

（＊22）ＩＴ…インフォメーション・テクノロジー（information technology）の略。情報通信分野に関する技術を利用する方法のこと。たとえば、インターネットを使って情報を集めたり、電子メールで人と連絡をとったりすることなどが挙げられる。

（＊23）**アメニティ**…豊かな緑、さわやかな空気、静けさ、清らかな水辺、美しい町並み、歴史的な雰囲気など、身の回りのトータルな環境の快適さ。

（＊24）**グリーンツーリズム**…みどり豊かな農村地域で、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。都市住民の心のやすらぎと潤いを確保するとともに、農村地域の活性化にもつながるものとして、こうした活動を促進するための環境整備が進められている。

（＊25）**コンパクトシティ型都市**…機能の集積とコンパクト化を特徴とする都市モデル。重装備のクラスター（機能分散）型都市とは違い、過大なサービスはなく、身近な多種多様な機能の相乗効果により快適さを追求する都市タイプ。

（＊26）**フルーツパーク**…黒川村蔵王に完成した県営農地開発事業に資するため、黒川村が村営で実施した果樹の実験ほ場。ぶどう、もも、さくらんぼなどを栽培。県営農地開発事業により整備された５０ヘクタールの農地は第３セクターで運営され、グリーンツーリズム型の体験型農業推進と、付加価値の高い加工ぶどうの生産を行う。

（＊27）**胎内ジャージー牛**…イギリスのジャージー島で純粋繁殖された牛の種類で、イギリス王室御用達のミルクをつくるために改良された乳牛。コクのある舌ざわりとまろやかな酸味はジャージー種ならではの特徴。黒川村では、畜産団地において飼育されており、牛乳、ヨーグルト、アイスクリームなどを加工販売している。

（＊28）**アンテナショップ**…元々メーカーなどが、新商品を試験的に売り出す小売店舗という意味で、市場の動向を探るために経営する店。首都圏や観光地など、ターゲットとなる顧客が多く集まりそうな場所に出店し、作り手の業者が直接最終消費者の反応を探る。

（＊29）**ワークステーション**…飯豊連峰の登山者の安全確保と自然公園内の監視・保全、また自然学習の拠点として、現胎内ヒュッテ脇に建設が進む宿泊施設。地上４階、地下２階で、収容人員９２名。平成１６年秋完成予定。

（＊30）**ネイチャーガイド**…自然が豊かな場所でその土地の生態系を教えてくれたり、自然の中で植物や動物などの説明をしてくれたり、豊かな自然を守り育てるにはどうしたらよいかをレクチャーしてくれるガイドの人たち。